

エプロン医学

心 房 細 動

加齢とともに増加する

心臓には、右心房・左心房・右心室・左心室の4つの部屋があります。心房細動は、このうちの左右の心房が、激しく震えることで起こる不整脈の一種です。脈拍が乱れて速くなるため、強い動悸と胸の不快感を覚えます。

加齢とともに起こりやすくなり、国内の患者数は10万人を超えると推定されています。

高血圧や糖尿病に合併

心房細動を放っておくと心

臓のポンプ機能が低下し、心不全になるほか、心房にできた血栓（血管内にできる血の塊）が脳の血管に流れ込んで脳梗塞を起こし、半身不随や寝たきりの原因になることがあります。

また心房細動は、心筋梗塞などの心臓の病気のほか、高血圧や糖尿病に合併して発症することが多くあります。

検査と治療法

診断や治療方法の決定には、心電図や胸部レントゲン撮影、心エコー検査などが必要です。

また治療には、再発を予防する抗不整脈薬や、心房細動の心拍数をコントロールする薬、脳梗塞を予防するための血液を固まりにくくする薬（ワーファリン）を使います。最近では、ワーファリンに代わる新しい薬が開発されているほか、血管内にカテーテルという細い管を入れて行う治療も急速に普及しつつあります。

日ごろ動悸を感じる人や、健診で不整脈を指摘された人は、お近くの循環器内科の医師に相談してください。

(神戸市医師会)